

岩手県の虎舞の研究

イセフン（李世訓）

[要旨]

虎舞は日本の郷土芸能の一つである。虎舞を披露する団体は青森県、岩手県、宮城県、神奈川県、山梨県、静岡県、香川県、愛媛県、熊本県にあり、地域によって虎踊りとも呼ばれる。日本内で虎舞団体が最も多い県は岩手県で、特に釜石市は市のイメージとして虎舞を積極的に活用していて、定期的に全国虎舞フェスティバルを催している。虎舞フェスティバルは2019年10月に第10回目を迎えた。

岩手県の虎舞は地域による芸態も異なり独特な魅力のある芸能であるが、なぜか研究があまり進んでいない。文字で残されている情報も少なく、文字化されていない多くの情報が口伝として伝えられていた。少子化などによる現実的な問題で活動を中断にしている虎舞団体が増えつつある最近、いち早く虎舞に関する研究を進め文字化する必要があると思われる。このため本稿を書くことにした。

虎舞に関する多くの情報は各地方の市町村史や地誌を参考にした。さらに岩手県の山田町の大沢虎舞、釜石市の片岸虎舞、陸前高田市の根岬梯子虎舞と同市の槻沢梯子虎舞とインタビューでさらなる調査を行った。また文字だけで理解が難しい場合はYouTubeや過去全国虎舞フェスティバルの映像も参考にした。

本稿の内容は3段階になっている。1部「岩手県の虎舞と他県の虎舞」では日本内にある虎舞について調べ、最後に岩手県の虎舞を中心に他県の虎舞から得た情報を加えながら内容をまとめた。2部「岩手県の梯子虎舞、気仙地域の獅子舞、そして他県の梯子獅子」では気仙地域、つまり岩手県大船渡市、同県陸前高田市、宮城県気仙沼市にある梯子に登る梯子虎舞を重点的に扱って。梯子虎舞についてより深く理解するため気仙地域の獅子舞、及び日本にある獅子が梯子に登る芸能である梯子獅子も調査した。最後に1部と2部の内容を3部「結—虎舞に関する考察」で総轄的にまとめた。下に岩手県の虎舞の特徴を簡略に述べる。

上述したように岩手県の虎舞は地域によって芸態の差が激しいため、この地域の虎舞を理解するためには地域別にグループ付けして考える必要がある。「宮古市・山田町・大槌町・釜石市」「大船渡市・陸前高田市」「軽米町・九戸村」「遠野市」の4つのグループに分けることができる。まず「宮古市・山田町・大槌町・釜石市」の虎舞は黄色い動物の虎に似た着ぐるみを着て、動物の虎のような動きをする芸態をもつ。この地域の虎舞は岩手県内で催される各種の芸能フェスティバル参加していて接する機会が多いため、おそらく岩手県で虎舞というと宮古市・山田町・大槌町・釜石市の虎舞を連想する人が多いと思われる。演目は呼び方に多少の差はあるが「遊び虎」「跳ね虎」「笹喰み」「和藤内」があり、特に演目「和藤内」からは人形浄瑠璃の「国姓爺合戦」の影響が伺われる。神奈川県、静岡県、香川県の虎舞も「和藤内」が登場しているが、岩手県の虎舞と直接的な関わりは未詳である。

一方「大船渡市・陸前高田市」の虎舞は上述した釜石市周辺の虎舞と全然異なる芸態をしている。この地域の虎舞の著しい特徴は虎頭を用いる団体と、虎頭ではなく獅子頭を用いる虎舞団体があるこ

と、虎（又は獅子）が梯子に登ることである。梯子に登る虎舞（以下梯子虎舞）は舞いに用いる梯子の運搬上の問題で他地域で披露することが少ない。虎頭の外観は動物の虎に似た外観をしているが釜石市周辺の虎頭と比べ微妙に違う。獅子頭は岩手県でみられる伊勢大神楽系の外観で、実際これをシンと呼んでいる団体もある。演目は「梯子舞」一つで、才坊振りと呼ばれる脇役が虎（又は獅子）を先導しながら梯子に登る芸態である。日本には梯子獅子と呼ばれる獅子が梯子に登る芸態が千葉県、兵庫県、愛知県、徳島県にあり、特に千葉県と兵庫県にある梯子獅子の芸態や梯子の立て方が梯子虎舞と類似した部分がある。しかし直接的なつながりは未詳である。

「軽米町・九戸村」の虎舞は3団体あることを確認しているが、本稿を書いている時点（2019年前後）では事情により活動を中止していた。残っている資料も少なく調査に困難であったが、YouTubeにアップロードされている軽米虎舞を映像を参考にすると芸態や虎頭が青森県八戸市に伝わる虎舞とほぼ類似していた。青森県八戸市の虎舞は鮫町の神楽の演目の一つ「朝鮮国加藤清正虎狩」の中で演じられたものだといわれる。虎頭は動物に似たものを用いるが、また釜石市のものとは微妙に異なる外観をしている。演目の種類は特になく、アイコと呼ばれる脇役が虎を先導して町を練り歩く。

最後に「遠野市」はどこにも属しない独特な地域である。昭和時代に釜石市の虎舞から伝習された団体もあり、大船渡市のような梯子虎舞もある。ただし、遠野市の梯子虎舞は大船渡市・陸前高田市の梯子虎舞と芸態や梯子の立て方が異なっている。

本稿では岩手県の虎舞を中心に他県の虎舞から得た情報を加えながら考察を行った。本稿を通じて岩手県の虎舞のより深い考察を行うことができると嬉しいが、まだ解決できなかった疑問点も多く、さらなる調査が必要であることは確かである。少子化による後継者不足の問題で虎舞を含めた多くの芸能団体の活動が中止することが多くなっている今、これに対して文字又は映像として情報を記録する必要があると思われる。この調査が今後のさらなる虎舞に関する研究に役立つことを願う。